

宇都宮市立宝木小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学力向上プランとの関連

(1)子どもの学ぶ意欲・学習習慣

○「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」という設問に対して1日30分以上本と向き合う児童は、全国平均よりも4.2ポイント高く、読書の習慣化が図れている。ただし、まったく読まない児童もいるので改善策が必要と考える。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という設問に対する肯定的回答は、それぞれ全国平均よりも13.6ポイント、16.5ポイント高い。自分を取り巻く社会環境に対する関心や社会の一員としての自覚が高いと言える。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定割合が100%で全国平均を3.2ポイント上回っている。継続的にいじめ防止のため、児童指導や道徳の実践で取り組んできたことで意識化できてきた。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という設問で、肯定割合が全国平均と比べて4ポイント低い。一方、「人の役に立つ人間になりたい」の肯定割合が高いので、少しずつ夢や希望を持てるようにキャリア教育に結び付けていきたい。

(2)教師の指導力

○「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対する肯定的回答は、全国平均よりもそれぞれ4.3ポイント、9.3ポイント高い。自己肯定感をもち、安定した気持ちで学校生活を送っている様子がうかがえる。

(3)保護者の協力・理解

○学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」では、学年学習時間70分の時間を確保している児童が、全国平均より7.2ポイント高い。学習内容の確実な定着を目指した家庭学習の推進の教育として、計画的、継続的な課題の出し方や家庭学習の手引き、学習がんばり週間の設定などの取り組みにより定着が図られている。これからも継続指導していきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問では、肯定割合が全国平均より3.6ポイント低い。早寝早起きの生活習慣を家庭と協力して確立していく必要がある。

□

宇都宮市立宝木小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫	公開授業を定期的に実施し、授業を見合い語り合う機会を設けることで、子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫について日々研究、実践している。	「算数や理科の学習がすきか」の質問に対しての肯定割合は、県の平均を7ポイント上回っており、学習に興味をもって取り組んでいることがわかる。「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」の質問に対しての肯定割合が県の平均を5ポイント下回っていることから、主体的に取り組むことについては課題が見られる。
・家庭学習の習慣化・継続化 手立てや取り組み方の提示	家庭学習の習慣化が図れるよう、家庭と連携した学習がんばり週間を年2回実施している。また、家庭学習の進め方を配付し、「わかる。できる・覚える」の3ステップでのやり方を明示し効果的に取り組めるようにしている。	「家で宿題をしている」の肯定割合は県の平均を上回っており、学習時間も二極化はあるものの確保できていることから、家庭学習の習慣化が図られている。「家で自分で計画を立てて学習しているか」や「家で予習や復習をしている」の質問では県の平均をやや下回っていることから、自分で計画を立てて主体的に学習することに課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・与えられた課題はきちんと行っていることにより一定の効果は上がっているが、授業でも家庭学習でも主体的に学ぶ態度が身に付いているとはいえない。	・主体的・対話的な授業を目指した、一時間ごとの授業準備、評価時間の確保	・月1回の金曜日5時間授業の放課後を授業準備の時間として確実に確保するとともに、教師が授業づくりや学習準備に使える時間を作り出すことで、質の高い授業を実施していく。